

事務事業名 交通安全施設整備管理事業

政策:02 住みやすい環境と安全なまちづくり

施策:07 交通安全対策の推進

基本事業:02 交通安全施設の整備

部名:市民部

課名:市民課

計画年度	年度	～	年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民				○ 市内の交通の安全の確保に必要な環境を図るため、交通安全施設（カーブミラー）の設置及び修繕を行いました。 < 設置及び修繕数 > ・ 設置数：50基 ・ 修理数：45基				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）								
見通しの悪い交差点やカーブ等の危険が軽減されます。								
4 活動指標・成果指標・事業費の推移								
区分	指標名称			単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	カーブミラー新規設置基数			基	41	50	19	30
活動指標	カーブミラー修理基数			基	63	45	70	70
成果指標	カーブミラーの設置要望対応率			%	93.2	90.9	93.0	93.0
成果指標	カーブミラー設置総数			基	-	3,043	3,062	3,152
事業費				千円	3,219	3,343	2,419	
			うち一般財源	千円	3,219	3,343	2,419	
5 目的妥当性								
○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い				カーブミラーを設置することにより、市民の安全が守られる。				
6 上位の基本事業への貢献度								
● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→） ○ 基礎的事務事業				交通安全施設が適正に管理・整備されれば事故の減少につながる。しいては市民の安全に結びついているため貢献度は大である。 平成19年度事故件数：314件 平成20年度事故件数：272件 平成21年度事故件数：219件				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討								
○ 対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる ● 対象や意図の見直しはできない ○ その他				カーブミラーを設置することにより、事故の減少ひいては死傷者の減少につながるため、見直しはできない。				
8 有効性（成果状況）								
● あがっている ○ どちらかといえばあがっている ○ あがっていない				適切な場所への設置は交通事故防止につながっており、山武市の交通事故発生件数は徐々に減少している。				
9 有効性（成果向上余地）								
○ 成果向上余地・大 ● 成果向上余地・中 ○ 成果向上余地・小・無し								
10 事業の再編成								
● 類似の事業があり、再編成できる ○ 類似の事業はあるが、再編成できない ○ 類似の事業はない				交通安全施設等の整備を、関係機関と連携し行っている。今後、市民からの要望受付を一本化することが望ましい。しかし、人的配置等を考慮すると現状では難しいが、将来的には考慮していく必要がある。				
11 効率性（コスト削減の方法）								
● ある ○ ない				道路状況に応じて面径の変更などで経費の削減ができる。				